

研究業績書の記載方法

(1) 業績書には、以下の順に区分して記載する。

①学位論文(修士論文等)、②著書、③編著、④訳書、⑤校注書・校注訳書、⑥論文、⑦翻訳、⑧訳注、⑨書評・学界展望等、⑩研究報告・調査報告、⑪校訂、⑫翻刻、⑬解説、⑭書誌、⑮分担執筆、⑯その他(研究に関わる評論・コラム等)、⑰学会発表・シンポジウム報告等

これらのうち、②～⑤は基本的に単行本、⑥～⑯は雑誌等掲載のもの、もしくは単行本の一部として収録されたものにあたる(ここでの丸付き数字は説明の便宜上付したもので、業績書には入れないこと)。

(2) 上記(1)の②～⑤では、書名、総頁数、刊行年月、発行箇所を明記する。共著・共編・共訳等の場合は、書名のあとにその旨を明記し、あわせて共著者名等を列記する(記入例を参照)。

※ここでの共著・共編・共訳等とは、表紙・奥付に氏名が明記されている業績に限る。たとえば、奥付の付近におかれた「執筆者紹介」等での氏名記載は、奥付に明記された氏名とは見なされない。

※複数人の論文を集成した単行本に収録されている論文は、上記(1)の⑥論文として扱う。すなわち、②著書(共著)・⑮分担執筆のいずれとも見なさない。

※特に③編著の中に、上記(1)の⑥～⑯に相当する自身の著述等が収録されている場合には、③編著の記載とは別個に、⑥～⑯の該当する研究業績を記載する。

(3) 上記(1)の⑥～⑯では、題名、掲載紙誌名(巻数・号数等も添える)もしくは収録する単行本の書名、掲載箇所の冒頭と末尾の頁数、刊行年月、発行箇所を明記する。共著・共編・共訳等の場合は、題名のあとにその旨を明記し、あわせて共著者名等を列記する(記入例を参照)。

(4) 上記(1)の⑮は、単行本等の一部分として収録されたもののうち、(1)の⑥～⑭及び⑯に相当しない著述をすべて含む。たとえば、事典・辞典・概説書等の項目執筆も含むものとする。

(5) 上記(1)の⑰では、題名、発表・報告の年月、学会名(大会名・研究発表会名)、開催都市等を明記する。共同での発表・報告の場合は、題名のあとにその旨を明記し、あわせて共同研究者名を列記する(記入例を参照)。

早稲田大学 博士(文学) 学位申請 研究業績書 (記入例)

[学位論文・著書・学術論文・その他(学会発表等)の順に記入してください]

氏名 戸山 花子

(年 月 現在)

修士論文	○○○○○○○○○		1995年3月	□□□大学
著書	○○○○○○○○○	総380頁	2004年11月	□□出版
	○○○○○ (共著、◇◇◇◇・戸山花子)	総420頁	2007年6月	□□□書房
編著	○○○○○○○○○○○			
	(共編、◇◇◇◇・戸山花子・◇◇◇◇)	総276頁	2003年2月	□□社
論文	○○○○○○○○○ 『○○○○』32-4	p. 23-p. 37	1996年5月	□□□□学会
	○○○○○ 『○○○○○』	p. 359-p. 386	1999年10月	□□出版
	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○			
	(共著、戸山花子・◇◇◇◇) 『○○』43	p. 61-p. 74	2001年4月	□□□学会
翻訳	○○○ (共訳、◇◇◇◇・戸山花子)			
	『○○○○○』26-3	p. 72-p. 96	2008年1月	□□書房
訳注	○○○○○○○ (共著、戸山花子・◇◇◇◇)			
	『○○○○○○○』	p. 37-p. 86	2005年2月	□□□舎
書評	○○○○○ 『○○○○○○○』23	p. 96-p. 101	2002年11月	□□□□会
分担執筆	○○○○ 『○○○○事典』	p. 23-p. 24	2007年6月	□□堂
その他(評論)	○○○○○ 『○○○』	p. 213-p. 218	2002年8月	□□社
その他(コラム)	○○○○○○○ 『○○○○○』67-10	p. 46-p. 47	2004年1月	□□□学会
学会発表	○○○○○○○○○○○○○○○○○			
	(共同、戸山花子・◇◇◇◇・◇◇◇◇・◇◇◇◇)	1996年9月	第△回□□学会	(開催都市)
	○○○○○○○○○○○	2000年5月	第△回□□学会	(開催都市)
	○○○○○○○ (共同、◇◇◇◇・戸山花子)	2003年3月	第△回□□学会	(開催都市)

NO. _____

早稲田大学 博士(文学) 学位申請 研究業績書
[学位論文・著書・学術論文・その他(学会発表等)の順に記入してください]

氏 名 _____ 印

(年 月 現在)